

青年対策交流集会 感想

今回が2回目の参加になった青年対策交流集会は多くのことを感じました。前回は全港湾に加入してすぐの参加だったため、全港湾や組合についての講演を聞いてもピンとこず、理解しようとするだけで精一杯でした。知らない方ばかりで緊張しながらもたくさんの方と会話をして顔と名前を覚えたり、組合とは何なのか考えるだけで精一杯だったと思います。

今回は、2回目の参加で前回より積極的に初対面の仲間と話すことができ、強い絆を作ることができました。講演では真島委員長や鈴木委員長の解りやすいお話だったこともあり、理解度も上がりとても成長できる時間だったと満足しています。

しかし、講演についてや組合活動について仲間と語り合う中で、まだまだ知らない言葉や知らない歴史、説明できると思っていたことが力不足で出来ないことに気付かされました。他の地方の年下の仲間が、私の知らなかった事を教えてくれた時は、尊敬や感謝の気持ちと同時に、悔しさ、恥ずかしさなど色々な感情が湧いてきました。

そんな私が鈴木誠一委員長の講演の中でとても印象に残った言葉があります。それは"知らないことは恥ずかしいことではなく、知ろうとすることが尊いのだ"という言葉です。私はとても楽な気持ちになれたと同時に、知らないことを追求していこうと前向きな気持ちになれました。また真島勝重委員長の講演では、"感じたことを地元に戻ってどう活かすか"という発言もとても胸に刺さりました。

これから私たちを取り巻く労働環境は色々な問題が待ち受けていると思います。この青年対策交流集会で作った仲間とこれからも力を合わせて立ち向かいたいと思います。

今の働き方は何が問題なのか、今自分に足りないことは何なのか、知らないことが何なのかを明確にして行動していきたいです。新スローガンにもあるように高き志で新時代を築きたいと強く思えた有意義な3日間でした。

準備や運営をして頂いた皆様、本当にありがとうございました。

関西地本神戸支部 井村 一輝